

ピアノのしおり



目次

伝統が磨きあげるヤマハの音	1
ピアノは生きています	1
ピアノと温度・湿度	2
ピアノへの心づかい	3
音のマニュアル	
■音へのおもいやり	4
■守りたい音のエチケット	4
■具体的な防音・遮音のヒント	5
ヤマハのアフターサービスをご紹介します	6
困ったな／故障かな?と思ったら	8
ヤマハサービス網	9

このたびはヤマハピアノをお買いあげいただきまして、ありがとうございます。

楽器づくり100年の歴史と伝統をもつヤマハが、

心をこめて作りあげ、誠意をもってお届けしたこのピアノが、

いつまでも皆さまに愛され、ながく良い状態でお使いいただけますように。

このしおりはそんな願いからつくられました。

あらかじめご一読のうえ、

ヤマハピアノをすえながくご愛用いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

このピアノには次のものがついています

お確かめください

ブックレット(本体添付、アフターサービスカード・保証書)

取扱説明書(本書)

拭布

キイカバー

鍵(一部の機種のみ)

伝統が磨きあげるヤマハの音

木の芸術品にもたとえられるピアノ。ヤマハでは天然の素材がピアノとして生れ変わり、「音」という微妙で感覚的な世界で美しく息づくよう、ピアノづくりにたえず真剣な努力をかさねています。厳選された材料、細部にわたるまでの徹底した品質管理、近代的設備、そしてたゆまぬ研究と技術開発…。これらの背景には100年の長い経験を通して得た音に対するすぐれた感覚、内外の一流アーティストとの日ごろからの交流から得られる「いま求められる音」に対する豊富な情報、名人といわれる熟達した技術者の存在があります。

さらに、ピアノの調律作業の面でもヤマハのピアノ技術者は、その技術力の高さ、誠意ある働きぶりによって世界的に定評があり、ヤマハとヤマハ特約楽器店とは、この水準の高い技術力を生かして、一体となって皆さまのピアノをすえながく見守ります。

こうしたヤマハの姿勢が、お届けした一台一台のヤマハピアノに生きているのです。



ピアノは生きています

精密なしくみから生れる美しい音、 快いタッチ

ピアノの内部。そこにはまるで人間のからだのように、ピアノを息づかせ、美しくたわせる秘密がぎっしりつまっています。ピアノの音を大きく美しく響かせる、心臓部にもたとえられる響板。指が鍵盤を叩く動作を敏感にうけとめて、正確にハンマーのうごきにかえてゆく、ピアノの頭脳といってもよいアクション。静脈や動脈のようにピアノの音を脈うたせる弦やフレーム…。細心の注意を払って精密につくられた、これらの部品のひとつひとつが、常に正確になめらかに働いてこそ、いつも美しい音、快いタッチを楽しむことができるのです。

環境条件に敏感な天然素材

ピアノには、木材、羊毛、クロスなどの多くの天然の材料が使われています。美しい音、弾きやすいタッチを生み出すために、こうした純粋な天然材料は欠かせないものなのです。そしてこれらの材料は、温度や湿度に対して敏感な特性をもっているため、ピアノは「生きもの」といわれるほどです。音やタッチをながく良い状態に保つために、購入後アフターケアが欠かせないのはそのためです。

ピアノと温度・湿度

ピアノにとってちょうどよい環境条件は

- 温度 / 15℃ ~ 25℃
- 湿度 / 50% ~ 70%

つまり私たち人間が快適と感じる状態と同じです。過湿、過乾燥、急激な温度変化はピアノの大敵なのです。

湿度が非常に高い場合

- アクションの動きがにぶくなる。
- ハンマーが湿気を帯び、音がこもりがちになる。
- 鍵盤が下がったまま戻らなくなる。
- 弦やチューニングピンなどの金属部分にサビが生じやすくなる。
- 外装の変化の原因となる。

温度が急激に変化する場合

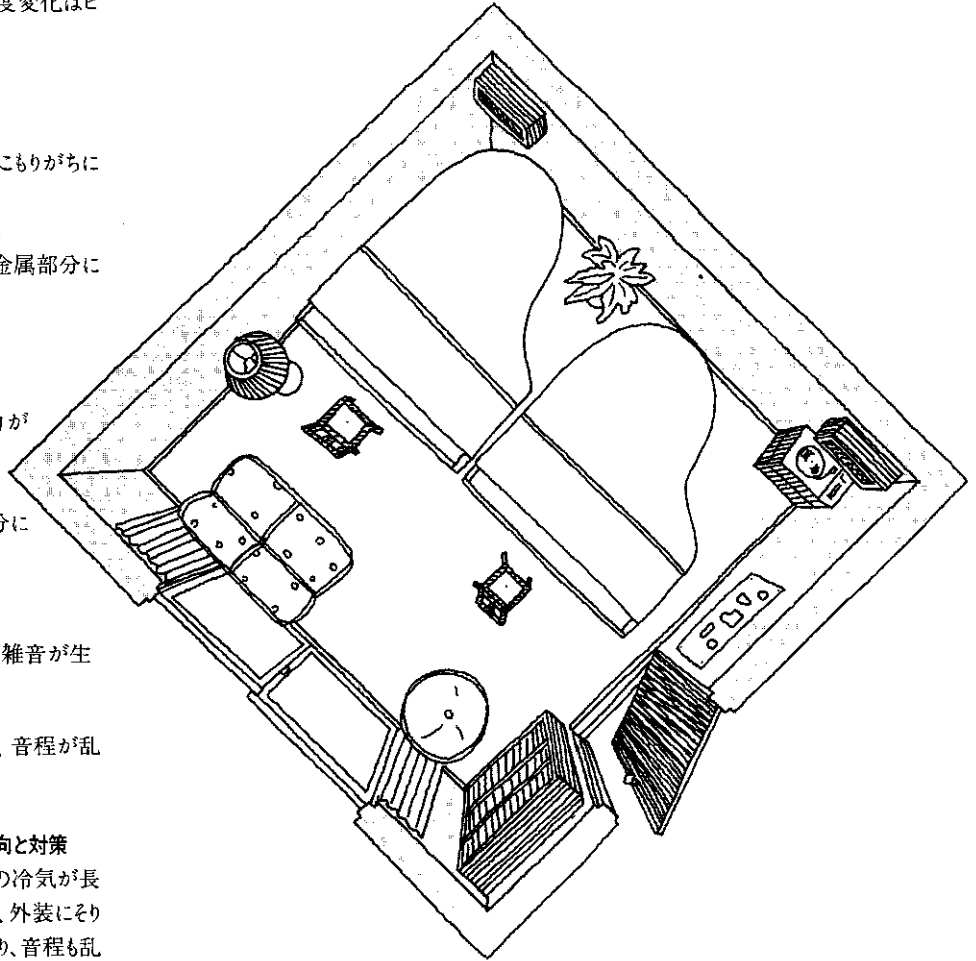
- 響板に影響がでて、弦の張力が変化し、音程が乱れやすくなる。
- 急激な温度変化によって生じる空気中の水蒸気が、金属部分に付着して、サビの原因となる。

乾燥しすぎの場合

- アクションのネジ部がゆるみ、雑音が生じる。
- 外装の変化の原因となる。
- チューニングピンがゆるくなり、音程が乱れやすくなる。

冷暖房装置とピアノ—具体的な傾向と対策

一般にストーブの熱やクーラーの冷気が長時間局部的にピアノに当たりますと、外装にそりが生じたり、ひび割れの原因となり、音程も乱れが早くなります。また急激な温度変化をさけるために、部屋はゆっくりと暖める(あるいは冷やす)ことが原則です。では、冷暖房装置それぞれのピアノへの傾向と対策をご紹介します。



	傾向	対策
ガス・石油ストーブ	燃焼の際水蒸気が発生します。	部屋の換気に気をつけましょう。 除湿機の使用を考えましょう。 ストーブの上のやかんはさけた方が良いでしょう。
電気ストーブ	水蒸気は発生しませんが、ピアノに局部的に熱が当たりやすい。	ピアノにとっては、ほぼ理想的な暖房器具です。 ピアノに直接熱が当らぬよう場所にご注意を。
セントラルヒーティング・クリーンヒーター	水蒸気は出ません。過乾燥になりがち。	観葉樹をお部屋に置いてみましょう。 加湿機の使用を考えましょう。
クーラー	冷たい風がピアノに直接あたるのはよくありません。 ピアノの真上に設置されていると水滴が落ちてくる恐れがあります。	設置場所とピアノの位置を考えましょう。

ピアノへの心づかい

いつまでも気持ちよくお使いいただくために

ご家庭でのピアノの手入れ

ピアノをほこりや汚れから守るために、塗装面や鍵盤などの部分には、次のようなお手入れをお願いいたします。

塗装面のお手入れ

- 表面についたほこりは、ピアノ用の羽毛か、やわらかな布で軽くふきとります。
- 鏡面艶出し塗装のピアノは専用のヤマハピアノユニコン〈別売〉でムラなく拭きあげてください。その他の塗装仕上げのピアノは、やわらかい布でから拭きしてください。
- 市販の化学雑巾や外装手入れ剤は成分がわかりませんので、使用はさけてください。

鍵盤のお手入れ

- やわらかい布に水をしみ込ませ固くしぼって拭きとったのち、乾いた布でから拭きます。
- 白鍵の汚れが目立つときは、ヤマハピアノキークリーナー〈別売〉の使用をおすすめします。＊黒鍵には使用しないでください。
- アルコールの使用はひび割れの原因となるのでさけてください。
- 外装を拭いた布にはユニコンなどが付着していますので、鍵盤には別の布をお使いください。
- 何といってもまず、汚れた手で弾かない習慣をつけましょう。

●日常のお手入れは、キークリーナーをお使い下さい。(お手入れの際は、黒鍵に付かないようご注意下さい。)

●誤ってコーヒー、お茶等の飲料、マニキュア、口紅等の染料が付着した場合は、直ちに固くしぼった布でお拭取りの上、キークリーナーをお使い下さい。

ピアノの上に置くものにもご注意を

次のものは直接ピアノの上に置いたり、こぼしたりならぬよう、お気をつけください。

- プラスチック製品(ポリエチレンを除く)——塩化ビニール加工をしてある表紙の本、電気コード、プラスチック製消しゴム、おもちゃ、など。
- ビニール製品全般。
- アルコールを成分とするもの——香水、殺虫剤、ウイスキー、マニキュア、ヘアスプレー、シンナー、など。
- その他——水の入った花瓶・鉢(水がこぼれては大変です)、ガラスケース(共鳴して音に影響します)など。

ピアノを安心してお使いいただくために

ピアノは大きくて重いものですから、取り扱いにつきましては、次のようなところにもご注意を…。

- ピアノの蓋の開け閉め。グランドピアノの場合は大屋根の開閉にもご注意のうえ、突上棒は必ず受け皿へさします。特に小さなお子様には気をつけてあげてください。
- ピアノを移動する時は専門の業者にご依頼なさることをおすすめします。
- 強度の地震の際には、机の下にもぐりこむのと同じ感覚でピアノの陰にいくのはさけてください。

ピアノの寿命について

ピアノには人間のように平均寿命はありません。お弾きになる方の年令や練習量によってずいぶんちがいますし、修理をすれば非常に長いあいだ使うことができます。しかし部品のなかには、どうしても消耗する部分もあり、性能の面からは何十年も最高の状態を保ち続けることはできません。修理が必要となった場合は、あるいは新しいピアノとお買い換えになる際には、もよりのヤマハ特約楽器店もしくは直営店にご相談ください。ヤマハでは古いピアノの下取りも致します。また万一ご不用になった際も運賃実費でお引き取り致します。



音のマニュアル

音へのおもいやり

まず音の性格を知っておきましょう

音に対する感じ方は受け取り手の心理状態によって変わります

自分が考えごとをしていたり、気分がすぐれないときに、外部から音が聞こえてくると何となくいらだちを覚えるご経験はどなたもおありでしょう。こんなときは、たとえ美しい音であっても、結果は同じです。このように「快い音、そうでない音」という判断は、私たちの心理状態で大きく変わってくるのです。ピアノを弾く場合も、周りの状況に気を配り、コントロールをしていくことが大切です。

音の大きさを測ると

音の大きさも条件や環境によって感じ方がちがいます。街の騒音などの度合を表す「ホン」ということばをご存じでしょう。これはさまざまな音の大きさを一定の基準で表すもので、日常生活では40～60ホン程度の音が聞こえています。

一般的にこれより小さければ「静か」と感じられるわけですが、ピアノの音は、70～90ホンぐらいになりますので、音への心づかいが必要とされていることがわかります。

音はこうして伝わります

音を伝わりかたの面からみると、大部分は空気の中を伝わり、あるものは物体を通して伝わります。

空気を伝える音は空気伝播音と呼ばれ、例えば車の走る音や鳥の声などがそうです。通りを歩いていきえてくるピアノの音もこれに当たります。

物体を通して伝わる音は固体伝播音と呼ばれ、2階で子供がとびはねている音が階下の部屋に聞こえる、などがその例です。ピアノの音も一部は床や壁を通して伝わっていきます。

守りたい音のエチケット

ピアノを弾く際にこころがけたいこと

ピアノを弾くときは窓を閉めて

窓を開けておくと、音は外へも流れ出ます（空気伝播）。ピアノを弾くときには窓を閉めることを習慣づけましょう。窓を閉めれば、ある程度音が外へ漏れるのを防ぐことができますし、こうしたこまやかな心づかいはお隣りにもさわやかな印象を与えます。

ご近所へ声をかけましょう

日頃からのおつきあいを通して、ご近所のご家庭の事情を知っておくことも大切です。ご病人や受験勉強などで、より静かな状態を望んでおられるかも知れません。よりよい環境でピアノを楽しむために、ご近所にはひとことあいさつして、音についても思いやりのあるコミュニケーションをはかりたいものです。

夜間のレッスンには心くばりを

夜はだれもが落ち着いた静かなひとときを過ごしたいもの。そのうえ、静かな夜間は小さな音でも伝わりやすくなります。夜間のレッスンはできるだけ控え、ピアノを弾く際には時間帯や音量にもご配慮ください。

